

あなたの健康誌

# 主治医

8月号

No.631 平成25年

ジイ ジント デア ハウス・アールツト  
*Sie Sind Der Hausarzt*  
あなたこそ主治医

平成二十五年八月二日発行(毎月二回発行) 第五十三巻 第八号 通巻六三二号 昭和三十三年九月二十日第三種郵便物認可

健康鼎談 女優 斉藤ともし子

特集 夏を乗り切る「食べ合わせ」健康法

## とびらの言葉

ジイ ジント デア ハウス・アールツト  
*Sie Sind Der Hausarzt*

——あなたこそ主治医——

自分のことは自分が一番よく知っている、自分を知っているのは、自分以外にはない筈です。

健康もそうで、健康は私たちの生活そのものによって創られるのです。私たちの健康はお医者さんが創るのでも、薬剤師さんが創るのでもありません。あなたの健康は、あなたの生活、あなた自身が創るよりほかありません。すなわち、あなたの主治医はあなた自身であります。あなたの主治医としてのあなたと共に、健康のことを考え、健康を創る資料を提供するために生れたのが本誌です。その意味で、いささかでもあなたのパイロットの役をつとめることができれば幸せです。

(昭和36年創刊時の言葉より)

### 主治医 631号 目次

健康鼎談	<b>社会福祉をライフワークに、多様性を生きる</b>	6
	齊藤とも子 木下光敏 横手久典	
特集	<b>夏を乗り切る「食べ合わせ」健康法</b>	16
	和漢薬研究所だより【本物づくり】 <b>放射性物質検査結果</b>	22
疾病患災時代の養生手帖	<b>養生訓の原点!?</b> 江戸野菜のススメ	3
	ライター 遠藤 隆	
ドクター福田の診察器	<b>夏に多い食中毒</b>	4
	監修 福田伴男	
コラム	<b>こんなことが!?</b> 30年前の今月は	4
	藤橋 進	
インタビュー「主治医」をうる直報の篇	<b>いい人みつけた!</b>	12
	全国自然薬研究会	
薬草の周辺	<b>チョウセンアサガオ</b>	14
	東京理科大学薬学部講師 和田浩志	
あつこの独り言	<b>どこに向かって走っているのが、ブレなければ</b>	15
	取材 高橋章子	
マンガ	<b>松葉町の日</b>	19
	高橋 玄	
おやじの脱書	<b>引きこもりから立ち直る少年をみた</b>	20
	監修 井内清満	
あゝ どうしよう	<b>裸足って気持ちいい!</b>	20
	保育シンガー・ソングライター 荒巻シャケ	
エッセイ	<b>日々是好日</b>	21
	シタライター 普天間かおり	
表紙写真ミニ解説	<b>ハス</b>	22
	自然薬師 野崎康弘	
ネイチャーウォッチ	<b>東南アジアの森林とくらし</b>	23
	前(公益財団法人)国際緑化推進センター専務理事 林 久晴	

募集中

# 元気川柳

詳細は「主治医」をご覧ください





株式会社 **和漢薬研究所**  
**カポニー産業株式会社**

◀このポスターのある薬局・薬店で

### 赤城山の水と緑が創った 自然薬紹介

■ **吸収性の良いカルシウム剤**  
 牡蠣(カキ殻)の天然カルシウムを中心とした三種類のカルシウム原料に栄養・吸収のバランスを考へて乾燥酵母を配合したカルシウム剤です。



新ササカル

# チョウセンアサガオ

東京理科大学薬学部講師 和田浩志

有毒植物といわれると、恐ろしくなって近づくとさえ避けたい気持ちになります。しかし、そんなことはつゆ知らず、脇を通ったり、庭で観賞していることは、よくあります。

晩夏から初秋に花が咲く外来のチョウセンアサガオは、有毒な麻醉薬として有名です。近縁のケチョウセンアサガオやキダチチョウセンアサガオも同様に有毒ですが、それぞれ帰化植物、園芸植物として身近にあります。



チョウセンアサガオ

チョウセンアサガオというのは誤解されやすい植物名です。花の形が漏斗形であることや朝に咲いて夕方しぼむ性質がヒルガオ科のアサガオによく似ていますが、実はナス科の草本で、茎はつる状にならず、浅く5裂した花冠の先が糸状に鋭く伸びるのがよい特徴です。また、チョウセンという名前がついていますが、熱帯アジア原産で、朝鮮半島の植物ではありません。

『三国志』にも登場する中国の伝説的名医、華佗が「麻沸散」という麻醉薬にこの植物を用いたといわれるほどに、古い時代からその麻醉作用が知られていました。しかし用量を間違えると何日間も狂躁状態になったり死に至ることがあるなど、薬にするには使い方がむずかかったのです。

江戸時代後期、患者の苦痛に心を痛めた紀州の医師・華岡青洲が、チョウセンアサガオを用いた華佗やヨーロッパの薬方を参考に、より安全な麻醉薬の開発に取り組みました。母親や妻の献身的な人体実験により、トリカブトやテンナンショウなども配合した「通仙散」が完成し、世界で初めて全身麻酔による乳癌手術に成功しました。

チョウセンアサガオが渡来したのは江戸時代前期の頃で、『和漢三才図会』（1713）には、「近頃朝鮮より来り、今人家に多く之を栽ゆ」と書かれています。初めは薬用の目的で植えられたのでしようが、次第に園芸植物としても多く利用されたようです。近年までは本州以南の道端などに野生化していましたが、最近は目にする機会が少なくなりました。

一方、ちょうどそれと入れ替わるように、近縁のケチョウセンアサガオ（アメリカカチョウセンア

サガオ）、ヨウシュチヨウセンアサガオ、シロバナヨウシュチヨウセンアサガオが帰化植物として道端や空き地などで見かけるようになりました。ケチョウセンアサガオは全体に細かい毛が生え、葉が白つぽくみえます。ヨウシュチヨウセンアサガオとシロバナヨウシュチヨウセンアサガオは、葉が深く鋭く切れ込むのがよい特徴です。それらは花の形がよく似ているため、区別せずに「チョウセンアサガオ」とよばれることもあります。

また最近、「エンジエルズ・トランペット」と称する黄色やオレンジ色の花をつけるキダチチョウセンアサガオ類が園芸植物として人気をよんでいます。チョウセンアサガオ類の花が上向きにぽつりぽつりと咲くのに対し、下向きにたくさんぶら下がるのが特徴です。

チョウセンアサガオの仲間が再び身近な存在になってきましたが、これらには同様の有毒なアルカロイドが含まれています。そのため、いろいろなトラブルも増えてきました。細長い花のつぼみをオクラやシトウ、根をゴボウ、花をケナフ、葉をモロヘイヤ、種子をゴマと間違えて食べてしまったという事例があります。また、有毒アルカロイドには瞳孔を開く働きがあるため、茎や葉などの汁が眼に入ると日光などの強い光を受けると眼に障害を起してしまいます。これらの植物に近づくと、むせるような異臭がします。それを知っていれば、トラブルは減らせるでしょう。

こんな話を聞くと、恐ろしい植物のように思えてしまいますが、毒性をきちんと理解したうえで対応すれば全く問題ありません。むやみに怖がることなく園芸植物としても楽しみましょう。